

校長室だより



気仙沼市立九条小学校
令和4年7月11日
NO.6
校長 白倉 彩枝子

かしこく やさしく たくましく



感謝する心 感謝を伝える心

先日は、御多用の中、学習参観・懇談会に出席いただき、誠にありがとうございました。当日、私は、みやぎ「行きたくなる学校づくり」教育視察のため、秋田県大仙市を訪問していましたので、保護者の皆さんとお会いすることはできませんでしたが、校庭が車でいっぱいだったと聞きました。子供たちは、たくさんの方々に授業を見ていただき、緊張しながらも、やる気満々で授業に臨んだのではないのでしょうか。また、懇談会では貴重な御意見、御要望をいただきました。学校としましては、見直しや改善を加えながら、対応していきますので、これからも御理解と御協力の程、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、6年生は、6月29日・30日と会津若松方面へ修学旅行に行っていました。初日は、観測史上最も早い「梅雨明け」と重なり、とても暑い一日となりました。2日目は、さらに暑くなることが予想され、自主研修では、熱中症対策が必至となりました。そこで1日目の夕食時、「水分」「帽子」「マスク着脱」等の基本対策とともに、「よく食べよく寝ること」「温泉で疲れを取ることも」声掛けしました。そのこともあって、翌日子供たちは、元気に朝食会場に集合しました。その席で、養護教諭から「朝食は、旅館の方が、1日のエネルギーや熱中症予防になる塩分量を考えて作ったメニューですから、感謝してしっかり食べてください。」という話がありました。暑さのため、食欲減退も心配されましたが、お替わりをする子供もいて安心しました。



食後に、先生方が、食事会場を見回っていた時、「校長先生、ちょっとこの箸袋を見てください！」と声を掛けられました。見るとそこには、鉛筆で、「**とってもおいしかったです。**」と書かれてありました。「感謝の気持ちを大切に…」ということは、これまでも何度か伝えてきましたが、まさか箸袋にメッセージとは！一人の子供の「感謝する心」「感謝を伝える心」に触れて、引率教員一同、感動した一件でした。感謝の伝え方は、いろいろあります。食事であれば、「完食すること」も一つですし、「ごちそうさま」を心を込めて言うこと、作った人に直接、「おいしかったです。」と伝えることも一つです。箸袋にさりげなく書かれたメッセージから、私自身、感謝の伝え方について、考えるよい機会となりました。

暑い暑い修学旅行でしたが、大きな事故もなく（…小さな失敗はありましたが…笑）、たくさんのことを体験し学んだ、有意義な2日間となりました。

学校到着後の「帰校の集い」で子供たちは、疲れていたにも関わらず、感想をしっかりと発表したり、先生方の話を集中して聞いたり、とても素晴らしい態度でした。その姿には、見送りや迎えに来ていただいた家族の方々への「感謝を伝える心」が、十分に感じられました。2日間の修学旅行を通して、さらに成長した6年生でした。

学校到着後の「帰校の集い」で子供たちは、疲れていたにも関わらず、感想をしっかりと発表したり、先生方の話を集中して聞いたり、とても素晴らしい態度でした。その姿には、見送りや迎えに来ていただいた家族の方々への「感謝を伝える心」が、十分に感じられました。2日間の修学旅行を通して、さらに成長した6年生でした。

自分で考え 自分で決める！



この言葉は、先日、視察訪問した秋田県大仙市立中仙小学校1年生の学年目標です。大仙市では、幼保小（…大仙市は「保育園」ではなく「こども園」です…）と小中の連携が推進され、合同で行う行事や授業が計画的に実施されています。

連携では、幼保小も小中も、「接続」と言われる「つなぎ」が大切です。この接続がうまくいかないと、「小1プロブレム」や「中1ギャップ」等の問題が生まれます。幼児教育の専門家から、「小学校・中学校に進学する時、幼稚園・小学校でどこまで育ったか、お互い十分に知ることが重要です。幼稚園では、リーダーとして活躍していた年長の子供たちを、小学校入学と同時に、いきなり赤ちゃん扱いしてませんか？」と問われたことがあります。確かにその傾向は否めません。1年生の子供たちは、小学校での集団生活は初めてですが、幼稚園や保育所で集団生活を経験し、年少・年中さんのよい手本となっていたはずです。そう考えると、子供たちなりに、先生や友達と相談しながら考え、判断し、自分の行動を決めるといことは、できないことはなさそうです。「自分で考え自分で決める」という学年目標には、少々驚きましたが、子供たちの力を侮ってはいけませんね。

先週の打ち合わせで、先生方から、「放課後、校庭で遊ぶ子供たちのランドセルの置き方がよくありません。中央昇降口前の階段付近に置いているので、階段が使いづらいし、危険です。」という問題提起がありました。この件は、私も気になっていて、目に余る時は直してあげたりもしていました。どうにかしないと…と思っていたところでしたので、グッドタイミングな問題提起でした。

話し合いでは、「どこに」「どのように置くか」が話題になりましたが、今回は、場所だけ指示し、置き方については、子供たちに考えさせることにしました。生徒指導主任からは、昼の放送を使って、職員室前の渡り板に置くことと、歩く邪魔にならないように、みんなのことを考えて置くよう、お話をされました。

そして放課後。2年生の子供たちが、友達と相談しながら、ランドセルや水泳バッグ、水筒等々を右の写真のように置きました。



「ランドセルは、立てて置いた方がいいよ。」

「もう少し詰めると、もっと置けるよ。」

「似ているランドセルがあるから、気を付けてね。」

友達と話し合う姿は、とても微笑ましく、頼もしく見えました。大人の感覚でいうと、まだまだ整然とは言えませんが、子供たちが考えて、子供たちが決めたランドセルの置き方です。みんなのことを考えて、このように決断、行動したことを、大いに称賛したいと思います。

「自分で考え自分で決める」このような意志や態度は、小学生でも必要な「生きる力」です。コロナ感染や、ロシアのウクライナ侵攻、そして、元首相銃撃事件…想定外のことが次々に起きるこの時代を、子供たちは、どのような気持ちで生活しているのでしょうか。

未来を生きる子供たちが、よりよく生きるために、子供自身が考え、判断し、行動する機会を、大人が奪わないように学校でも、家庭でも意識していきたいものです。子供を「育てる」から、子供が「育つ」へ…子供主体の教育が始まっています。

お知らせとお願い

□明日12日（火）は指導主事学校訪問のため、全校5校時限、14:40一斉下校となります。御対応をよろしくお願いいたします。

□7月上旬よりコロナ感染レベル1となりましたが、健康観察シートの記入・提出は継続です。特に、御家族の健康観察もお忘れなく記入してください。